

# 医療ルネサンス

No.5903



# 心臓を支える

## 訪問診療が再入院防ぐ

「通院が難しいようなら自宅に診療に行きます」。

循環器内科医の弓野大さんが、東京都中野区の桜井省吾さん(87)に提案した。

桜井さんは2010年に、心臓を覆う血管内が狭くなる狭心症を発症。胸などの痛みで東京女子医大病院に入院した。痛みは治まったが、その後も呼吸が苦しくなるなどの症状で入院を繰り返した。脳梗塞で右半身がまひしており、病院は、妻のれい子さん(85)と息子が手伝っていた。

「夫は歩けなくて大変でした」とれい子さん。12年から、弓野さんが院長を務める「ゆみのハートクリニック」(東京・高田馬場)から1週間に1回、訪問診療を受けることになった。同クリニックに13人の医師が在籍。都内の病院から紹介された手術後や慢性心不全の患者を中心に、24時

間体制で訪問診療を行っている。国内でも数少ない心臓の専門クリニックだ。

桜井さんを自宅で診察した弓野さんは生活の様子を見て、心不全を悪化させないための水分・塩分の制限や、リハビリの必要性などについて説明した。診療結果はノートに書き残し、別に訪問に来ている看護師、

理学療法士と情報を共有できるとした。

また桜井さんは夜間に呼吸が苦しくなることが多いため、就寝時はマスク型の人工呼吸器を着けてもらうようにした。呼吸が弱くなったり、止まったりした時に空気を送り込み、心臓の負担を減らす効果がある。弓野さんは「心臓病は自



弓野さん(右)の診療を受ける慢性心不全を患う壬生さん(東京都練馬区の自宅で)

宅での生活で悪化することが多い。医療面から生活を改善すれば入院を減らせる」と話す。訪問診療が始まってから桜井さんは入院していない。リハビリで歩

く姿勢が良くなり、週1回、介護施設に出かけている。医療機器の小型化が進み、心臓の動きを見る超音波や心電図などの検査も在宅で受けられる。慢性心不全で昨年12月から訪問診療を受けている東京都練馬区の壬生ツエさん(85)は「検査は時間がかかるが、病院でなく、自宅で受けるなら

苦にならない。状態が悪くなった時も、往診で病院と同じ検査や治療が受けられ、安心感がある」と話す。同クリニックでは連携する医師、看護師、ケアマネジャーなどを対象に在宅医療の勉強会を開いている。弓野さんは「生活を支える医療・介護の人の輪を広げていきたい」と話している。

(渡辺理雄) (次は「いま虐待の現場で」です)

「病院の実力 2014総合編」が発売中。一般書店と読売新聞販売店で扱っています

- 簡単ゴマ豆腐 (237kcal・塩分1.1g/1人)

本来はくず粉を練って作るため手間がかかりますが、ゼラチンで簡単に挑戦できます。豆乳は濃度が高いものを選ぶ

### ワサビ適量

【作り方】①水大さじ3杯に粉ゼラチンをふり入れ、ふやかす②鍋に豆乳、水1/4カップを入れて火にかける。熱くなったら、沸騰する前に火から下ろす。塩小さじ1/2杯と、ふやかしたゼラチンを加えて混ぜ、よく溶かす③ボウルに練りゴマを入れ、②を少しずつ加え、よく溶き

